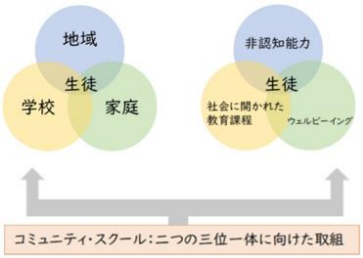
Tatebayashi
Commercial
Industrial
Senior High School

群馬県立館林商工高等学校
コミュニティ・スクール　通信
第７号　2026.2.4

Technique
Curiosity
Imagination

令和７年度　第４回　学校運営協議会



１月２３日（金）に「課題研究・学習成果発表会」（於：日本キャンパックホール）と日を併せて開催しました（左上：文科省作成のCSのロゴ、右上：CSの理念を示した図）。

１　課題研究・学習成果発表会視察

発表　『群馬イノベーションアワードに参加して』
『群馬県創意くふう作品展への挑戦　テーブルタップと延長コードの作成』
『６代目百年小麦ＰＲ～百年先までつなぐ』

◇生徒の活躍と教育活動の一端を知る機会とともに、熟議の参考としました。
◇群馬イノベーションアワードへの参加は、学校運営協議会の提言から実現しました。

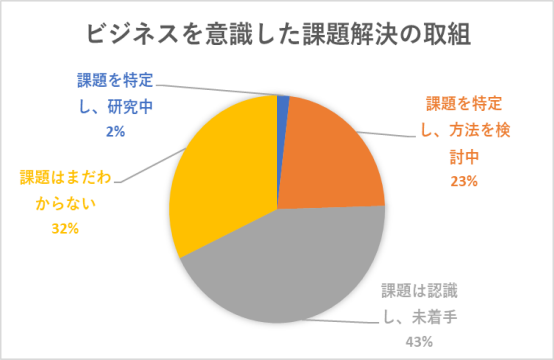
２　説明・報告等

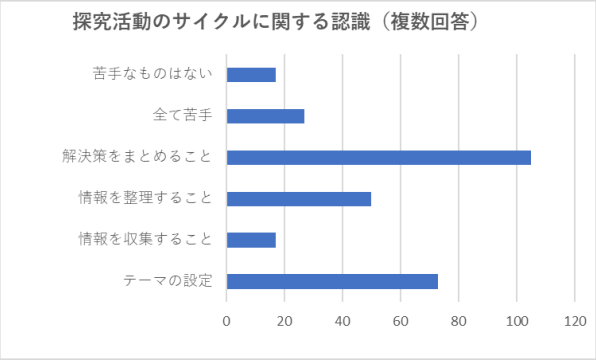
（１）地域連携活動

今年度の地域連携活動は集計できただけで36項目。資料にまだ掲載されていないものもある。課題研究や授業での実践のように教育活動に位置付けられたものと、部活動やボランティア形式によるものなど、実践主体も様々である。

（２）課題研究に関するアンケート（商業科）から考える本校生徒の課題

「課題発見」を不得意とする生徒が多い。生徒が課題と認識しているものが必ずしも、地域の方が考える課題と一致していない可能性もある。コミュニティ・スクールとしての活動をフィードバックできるとよいのではないか。目指す学校像（「地域と産業を担う人材を育成する」）考えると、地域の方と課題を共有する機会があってもよいと思う。





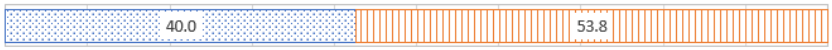
（３）これからの学校運営協議会の在り方

昨年10月に「県立学校の在り方に関する地区別情報交換会」が開催された。昨今の少子化は加速度的なものがあり、「高校授業料の実質無料化」などの政策も加わって、本校単独で物事をとらえるのではなく、「この地域にどのような教育機関が必要なのか」という視点から議論を深める必要がある。そのためには、本校がこの地域で担ってきた教育的な財産（レガシー）を可視化し、この地域と次代に継承できるよう、事実に即して論点を整理することがモデル校3年目を迎える本協議会に求められるのではないか。

（３）地域連携活動に関するアンケート結果

① とてもそう思う　② ある程度そう思う　③ あまりそう思わない　④ 全くそう思わない

1　地域連携活動に参加してよかった。

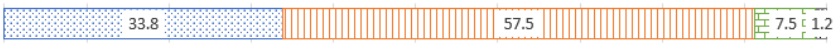


〇「参加してよかった」主な理由
・普段経験できないことを経験できたり学校では学べないことを沢山学ぶことができたりして、自分のためになったと思ったから。
・活動をしていて多くの人とか関わられたから。

2　地域連携活動を通じて他者の気持ちを理解する力が高まった。

3　地域連携活動を通じて他者と協力する力が高まった。

4　地域連携活動を通じてその場・その時の状況に応じて行動する力が高まった。



〇上記２～４以外の地域連携活動を通じて多くの生徒向上したと回答した資質・能力等
思考力・判断力・コミュニケーション力・計画力や企画力・自己有用感・責任感

5　地域への理解が深まった。

6　地域貢献したいという気持ちが強くなった。

地域連携活動は「社会に開かれた教育課程」の実践である。また、直接地域と関わることで、自分が「社会の担い手」になりうるという思いをもつことにもつながる。

（４）これまでの成果
・提言や情報提供を踏まえて学校（生徒・教職員）が教育活動に取り組むことで、生徒の資質と能力の向上及び活動内容の充実につながっている。
・委員と生徒の懇談を通じて、生徒は学校以外に、自分たちの話を真剣に聞いて考えてくれる大人がいるという安心感を得た。また、委員と教員の情報交換を通じて、双方が有意義な情報を得るとともに学校を客観的に見直す機会を得ることができた。

（５）これまでの課題
・検討してもらいたいことが多く、熟議が単発的なものに終始していること。提言の全てに対応できていないこと。学校課題の解消が十分に検証されていないこと。熟議のあとの協働の在り方、等があげられる。課題については委員に帰するものでなく、引き続き、解決に向けて協働を進めていく性格のものである。
・コミュニティ・スクールとしての利点である「教職員の業務軽減」についても大きな改善には至っていない。

３　熟議　※グループ内で多くの意見が出されましたが、それぞれ５つに絞って記載

【テーマ】「魅力ある学校づくりのために取り組むべきことについて」

グループ①：「学校内での取組」
・課題を見つけることが大切である。そのためにも、自主的に興味をもてる環境を作る必要がある。
・課題研究がテーマを深堀する意味でも、単年度ではなく継続的にできるとよい。
・積極的な生徒が消極的な生徒を引っ張ることで、一つの実践をする（GIA発表生徒の例）。
・「資格が取れる」ということを強くアピールする。
・「（部活動の実績等を例に）あそこに行けば、こういうことができる」という強みをアピールする。

グループ②：「学校外の組織等との連携を通じた取組」
・社会の実態を認識できるようインターンシップの充実を図る。
・企業と連携し商品開発を行う。
・群馬イノベーションアワードの時のように、地元企業の人からアドバイスをもらう。
・課題研究が３年生で終わってしまうということがないように、一つの部活動として、様々な場所に出ていったらどうか。アピールにもなるし、経験を重ねることは大切。
・地域連携を通じた課題研究で終わらせることなく起業家になる準備を行う。商工会には相談に対応できる人材も多いので、声をかけてほしい。

※次年度は令和8年6月に第1回学校運営協議会の開催を予定しています。また、学校評価は3月末には公開しますので、本校の教育活動にご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

【参考】コミュニティ・スクールをもっと深く知るための用語集

（１）社会に開かれた教育課程　…※１

①よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を学校と社会とが共有。

②これからの社会を創り出していく子供たちに必要な資質・能力が何かを明らかにし、それを学校教育で育成。

③地域と連携・協働しながら目指すべき学校教育を実現。

⇓

●コミュニティ・スクール（学校運営協議会を置く学校）

学校運営協議会とは、地域住民や保護者等が学校運営に参画し、「熟議」を通して目標やビジョンを共有することによって、地域と一体となって特色ある学校づくりを進めていくことができる、法に基づく仕組み

●地域学校協働活動

地域住民の参画を得て、地域全体で子供たちの学びや成長を支えるとともに、「学校を核とした地域づくり」を目指して、地域と学校が連携・協働して行う様々な活動。

（２）認知能力と非認知能力　…※２

●認知能力…　・知識・技能・思考力といった知的能力のことで、知能検査（IQ）や学力検査などを通じて、数値化や測定が可能な能力のこと。

●非認知能力…・主に意欲・意志・情動・社会性に関わる３つの要素（①自分の目標を目指して粘り強く取り組む、②そのためにやり方を調整し工夫する、③友達と同じ目標に向けて協力し合う）からなる、心の内面に関する能力のこと。

・経済学の多くの研究で、大人になって社会的・経済的に成功する上で、学力に代表される認知能力に加えて、我慢強くやり遂げるような自制心、実行機能と呼ばれる能力、人と協働できる能力などの非認知能力が重要であることが明らかにされている。

☞相互補完の関係

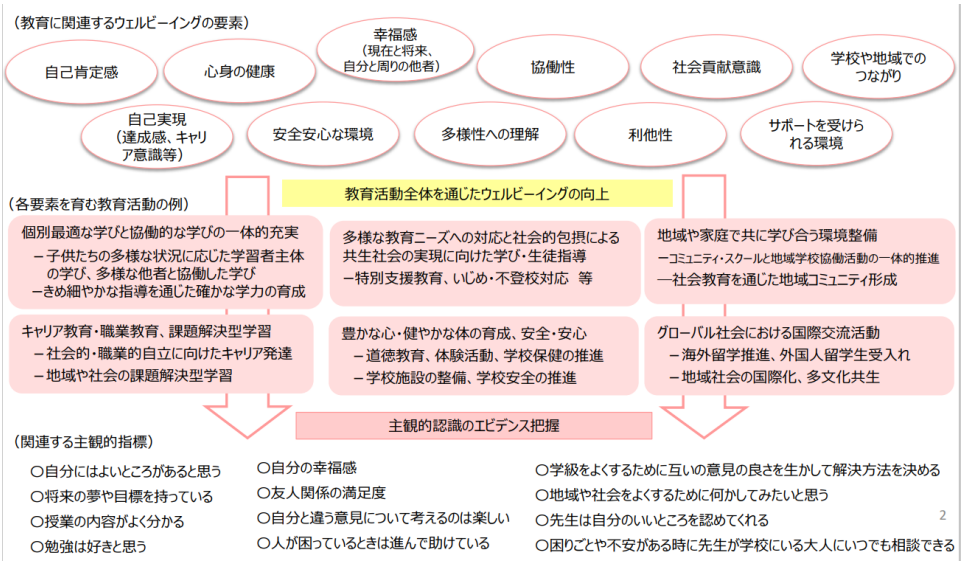
（３）ウェルビーイング　…※３

定義…　・身体的・精神的・社会的に良い状態にあることをいい、短期的な幸福のみならず、生きがいや人生の意義などの将来にわたる持続的な幸福を含む概念。

・多様な個人がそれぞれ幸せや生きがいを感じるともに、個人を取り巻く場や地域、社会が幸せや豊かさを感じられる良い状態にあることも含む包括的な概念

【参考資料】

※１…　文部科学省：社会に開かれた教育課程

※２…　中央教育審議会 初等中等教育分科会 幼児教育と小学校教育の架け橋特別委員会報告

※３…　文部科学省：ウェルビーイングの向上について（次期教育振興基本計画における方向性）